Rotary 奉仕しよう みんなの人生を豊かにするために

ガバナー月信

vol.05
2021.11

月信 11 月号

① ガバナーメッセージ
② クラブ近況報告（新発田 RC）
③ クラブ近況報告（新潟中央 RC）
④ クラブ近況報告（見附 RC）
⑤ クラブ近況報告（長岡 RC）
⑥ クラブ近況報告（新井妙高 RC）
⑦ 会員数及び出席報告
⑧ 地区主要行事予定（11 月・12 月）
⑨ 新入会員紹介
⑩ コーディネーターニュース
⑪ ハイライトよねやま

国際ロータリー第 2560 地区
2021-22 年度
高尾ガバナー事務所

新潟市中央区川端町 6-53 ホテルオークラ新潟 1F
TEL: 025-222-2561 FAX: 025-222-2565

「ロータリー財団」月間に際して

国際ロータリー第 2560 地区
2021-22 年度 ガバナー
高尾 茂典（新潟中央 RC）

秋のやわらかな日差しが秋色の樹木を照らす季節となりました。

今年度が始まり 4 ヶ月が駆け抜けました。私は、公式訪問をはじめ慣れないこともあり、目が廻るほど忙しくも大変充実した日々を重ねております。

10 月末には 49 クラブの公式訪問を終える予定で、順調に進んでおります。これも各クラブのご理解と幹事・副幹事の皆様のお力添えのお蔭と感謝しております。

公式訪問の際には、各クラブのロータリアンの皆様より歓迎のお言葉を頂きながら、クラブメンバーとのクラブ協議会や意見交換で貴重なお話をお聞きすることができ、私にとっても大変嬉しく、勉強になっております。

さて、11 月は「ロータリー財団」月間です。

ロータリー財団は、私達の寄付を通じて、世界各地で良いことをしようをスローガンに、補助金を有効に利用しながら奉仕活動を続けております。

クラブは、様々な奉仕活動に地区補助金を利用しながら地域の皆様と一緒に汗を流し奉仕活動をする事で、ロータリーをご理解頂き、認知度を更に深めてまいりましょう。

また、世界に向けてのグローバル補助金についても、重点分野を見極めて被援助国（実施国）と一体となった目的達成のためのプロジェクトは、相方のクラブ、地区財団活動資金そしてＷＦ等から大きなお力を頂いて大プロジェクトに育ち、発展途上国の恵まれない地域へ、我らの熱い思いを届けてまいりましょう。財団は恵まれない地域への救済を通じて、国際理解、親善平和の達成を使命に運営されております。

最後に、ロータリー財団を更にご理解いただくとともに、今後の活動につきましてもご協力を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

クラブの近況報告

新発田ロータリークラブ
クラブ会報委員会
委員長　山中　周一

新発田ロータリークラブでは、2020-21 年度の 11 月に定められた例会運営基準を 2021-22 年度においても継続基準とし、次の通り 10 月まで例会運営を進めてきました。

【当クラブの例会開催基準】新潟県 4 段階の発令情報（旧基準）を目安として

ステージ 1　平時	・例会開催（スクール形式）　・食事：12 時より ・例会時間：12 時 30 分から 13 時 10 分まで ・卓話：15 分程度の会員によるもの
ステージ 2　注意報	・例会開催（スクール方式）　・食事：食事持ち帰り ・例会時間：12 時 00 分から 12 時 30 分まで ・卓話：なし
ステージ 3　警報	・例会休会　・食事：例会場にてお弁当配布
ステージ 4　特別警報	・例会休会　・食事なし

※ 県においては 10 月 15 日をもって警報解除となり、同時に県の基準を見直したので、11 月より当クラブの基準も見直しの予定です。

また、会員総数が 90 名を超える当クラブにおいては、会員の親睦事業や懇親会等は多くが中止または延期中です。感染拡大防止においては三密回避・人流抑制を優先し、クラブメンバーの感染及びクラスター発生を防ぐよう配慮しました。

昨年度、当クラブがホストとなり開催日を複数回変更して行いました地区大会では、参加人数の制限・オンライン併用のハイブリット方式を採用しての開催でした。ご協力を戴いた皆様に感謝申し上げます。

今年度も、そしてその準備段階でも、委員会や引継ぎ等の会議も非対面の手法を活用して実施を心がけています。事業では、社会奉仕委員会で予定していた公開講演会は来春へ延期となりましたが、市内中学校・高校に衛生用品を寄贈する事業は実施することができました。クラブ奉仕委員会では、電話やメール等の活用で入会候補者の紹介などを募り、現在、入会予定者が数名いますし、親睦委員会では、10 月初旬に懇親会なしでの親睦ゴルフコンペを感染対策を講じて開催しました。

現在、感染者数も減少してきてはおりますが、ウィズコロナの社会情勢も踏まえて感染拡大防止に努めながら、11 月より新基準を用いてクラブの活動、例会運営に取り組んで参ります。

クラブの近況報告

新潟中央ロータリークラブ
会 長　広川　彰

COVID-19の第４波が収まりかけた頃新年度が始まり、今まで自粛していたクラブ活動を徐々に再開できると安堵していましたが、その後、更に大きな第５波に襲われ、前年度に引き続き、クラブ運営に苦慮するスタートとなりました。当クラブの例会は、通常より広い会場を利用し、テーブル席数も半数にするなどソーシャルディスタンスを保ち、飛沫防止シートの設置やマスク着用、手指消毒等、感染対策を徹底し実施しておりました。しかし、8 月末に新潟県が特別警報を発令したことを受け、例会は月 2 回に削減し開催しております。その後、県内の感染者数は減少傾向に転じ、10 月 15 日には警報も解除されておりますので、今後も感染対策を講じ、徐々に通常例会に戻していける事を願っております。

今年度初めての活動は、9 月 12 日に、第 2820 地区がホストを務めるロータリー奉仕デー海岸河川美化プロジェクトに参加し、中央区関屋浜の海岸清掃を実施しました。思っていた以上にプラゴミの多さを痛感し、海洋汚染で重要視されているマイクロプラスチック問題を改めて考えさせられました。我々の活動だけで大きく改善させる事はできませんが、この問題について一人一人考える事が大切だと思います。

毎年 1 月に、社会奉仕活動の一環として、障がい福祉サービス事業所あどばんす様へ、地域交流事業もちつき大会のお手伝いに参加しておりましたが、本年は、COVID-19 感染拡大の影響で、残念ながら中止となりました。事業所関係者の皆様や、地域の方々とふれあい、ロータリー活動を広める良い機会ですので、来年は行事が開催される事を願っております。今年度、高尾ガバナーの方針でもある、ロータリー活動の認知度を向上する為の活動を、今後も継続していきたいと思います。

当クラブは、来年、創立 30 年の節目を迎えます。諸先輩が作り上げてきたこのクラブが更に発展する事を願い、次年度へ襷を繋いでいきたいと思っております。

新型コロナとクラブの運営等

見附ロータリークラブ
会 長　三本　進一

高尾茂典ガバナー年度（2021-22 年度）がスタートしてから 1 年間の 3 分の 1 にあたる 4 カ月が経過しましたが、考えていましたクラブ運営が円滑にできているとは言えない状況が続いています。

コロナ禍の影響を視野に入れながらも、例会場（ホテルつるや）における感染対策がしっかりとされていることから、会員一人一人が感染防止に対する意識を高めることにより、年度当初から通常の例会を開催しておりますが、出席率の向上が課題となっているのが現状です。

そうした影響もあり、会員増強、社会奉仕活動の実践をはじめとする 4 重点項目の取り組みも停滞している状況と言わざるを得ません。

県の警報も解除され、感染者の落ち着いた状況となっていることから、ロータリーを学ぶための卓話者招へいなど、例会の内容を充実させて例会への出席率を高める取り組みを進め、ロータリー奉仕デーを視野に入れながら、会員間の理解・親睦・連携を深めることにより重点項目の進展を図っていきたいと考えています。

高尾ガバナーをはじめとする地区役員・スタッフの皆様のご指導とご支援をよろしくお願い申し上げます。

クラブの近況報告

長岡ロータリークラブ
会 長　町田　大輔

長岡ロータリークラブでは、多くの他クラブ同様に、今年度に入ってから、なかなか「普通」を行うことが出来ず、「コロナ対応」という大きな制約を受けた中での活動になっています。

しかしながら、ようやく全国的に見ても感染者数が日に日に下がってきており、各種経済活動だけでなく、ロータリー活動においても、徐々に「普通に近く」なってきているのが現状です。

今年度の長岡ロータリークラブでは、コロナ禍でのロータリー活動が長期化してきている中で、「ただ出来ない」ではなく、「どんなものであれば実施できるのか」ということを考えようという方針で活動しています。

その場合には、「以前はこうだった」ということで、ただ踏襲することなく、「なぜ、このようにしていたのか」という各種事業実施の趣旨と目的を考えることが出来ました。このことは、比較的入会年数が浅い当クラブのメンバーにとって、大変ではありますが、非常に有意義なものでした。今年度の残りも、１つ１つの事業を丁寧に状況に合わせながら、事業の本質を勉強しながら進めていきたいと思っております。

クラブの近況報告

新井妙高ロータリークラブ
会 長　長谷川 覚

コロナ禍によりさまざまな活動・会合が制限を受ける中で、小人数であれば集まって行動することも可能ではと考え、各委員会活動の活性化を図り、議論や交流・活動の機会を設けていこうと今年度をスタートさせました。

しかし、実際は 7 月に新年度がスタートしたと共に、コロナ第 5 波の感染拡大に襲われ、首都圏を中心にした緊急事態宣言や新潟県独自の特別警報、妙高市からの感染予防指導等により、ほとんど行動できていないのが実状です。

例会についても、8 月くらいまでは妙高市長の卓話やベテランの会員からの定款・細則についての勉強会等を実施できましたが、8 月下旬からは外部講師の卓話予定を先送りにしたり、例会自体の時間を短縮して開催したり、学校形式の 1 テーブル 1 人で距離を離して座ったりと会話すら少なくなっていました。今年度に入って 3 人の新入会員を迎えてはいますが、会員増強委員長ほか数名の個人的なネットワークでの勧誘のみの状況であり、新入会員との交流もできていません。

ワクチンの接種率も上がり、今は新規感染者も少なくなっているので、感染予防を継続しながら、まずは各委員会で会議を開催し、当初予定していたロータリー財団地区補助金事業を含む奉仕活動や会員増強活動・会員勉強会・広報活動等、今年度の活動計画をいつどのようにやるのかを検討し、実行に移していきます。

昨年策定しましたビジョン声明に対して、40 代・50 代の若手メンバーを中心に選任して戦略的優先事項の検討も行っていきます。また、会議だけでなく、懇親会も様子を見ながら委員会単位で順次開催していきたいと考えています。

第2560地区　2021-22年度9月末　会員数および出席報告

R C	例会数	My Rotary アカウント登録率	会員数 2021年7月1日	9月末会員数	うち女性	増減
第1分区(9クラブ)		−	372	382	34	10
新発田	0	28.0%	93	92	0	−1
村上	4	18.0%	38	39	9	1
水原	3	21.9%	32	32	1	0
中条	4	84.1%	41	44	3	3
新発田城南	4	17.5%	40	40	3	0
豊栄	2	12.5%	20	24	3	4
新発田中央	3	4.3%	44	47	4	3
中条胎内	4	52.8%	36	36	6	0
村上岩船	3	25.0%	28	28	5	0
第2分区(9クラブ)		−	433	446	25	13
新潟	4	23.3%	82	86	2	4
新潟東	3	16.9%	62	65	8	3
新潟南	5	32.1%	105	108	3	3
佐渡	2	100.0%	6	6	0	0
新潟西	4	50.0%	39	40	2	1
佐渡南	3	12.2%	40	41	4	1
新潟北	2	29.7%	37	37	0	0
新潟中央	3	38.1%	21	21	0	0
新潟万代	3	52.4%	41	42	6	1
第3分区(6クラブ)		−	97	99	5	2
新津	3	11.8%	17	17	1	0
村松	4	66.7%	12	12	0	0
五泉	3	0.0%	11	11	1	0
白根	4	30.0%	29	30	1	1
新津中央	4	31.8%	22	23	2	1
阿賀野川ライン	4	0.0%	6	6	0	0
第4分区(11クラブ)		−	366	366	27	0
三条	1	12.1%	56	58	0	2
燕	3	6.1%	34	33	3	−1
加茂	1	8.8%	33	34	6	1
三条南	1	13.6%	44	44	2	0
分水	4	79.3%	29	29	4	0
見附	4	4.8%	21	21	1	0
吉田	2	6.5%	28	31	3	3
三条北	3	1.7%	58	58	2	0
巻	3	0.0%	25	21	2	−4
田上あじさい	4	14.3%	7	6	1	−1
三条東	1	6.5%	31	31	3	0

R C	例会数	My Rotary アカウント登録率	会員数 2021年7月1日	9月末会員数	うち女性	増減
第5分区(7クラブ)		−	296	299	25	3
長岡	4	80.0%	45	45	3	0
柏崎	3	2.5%	41	40	0	−1
長岡東	3	27.8%	52	54	3	2
柏崎東	1	17.4%	45	46	3	1
栃尾	3	12.0%	25	25	0	0
長岡西	3	19.6%	50	51	4	1
柏崎中央	3	23.7%	38	38	12	0
第6分区(6クラブ)		−	122	128	11	6
十日町	3	28.1%	32	34	4	2
小千谷	1	10.0%	30	30	3	0
雪国魚沼	4	17.4%	20	23	2	3
十日町北	1	0.0%	18	19	1	1
津南	3	18.8%	16	16	1	0
越後魚沼	3	16.7%	6	6	0	0
第7分区(7クラブ)		−	312	316	23	4
高田	3	31.5%	72	73	5	1
直江津	2	32.4%	69	68	6	−1
新井妙高	4	11.8%	31	33	1	2
糸魚川	3	72.1%	41	43	3	2
高田東	3	63.9%	36	36	3	0
糸魚川中央	4	50.0%	28	28	0	0
越後春日山	4	100.0%	35	35	5	0

クラブ数	55	クラブ
7月1日　会員数	1,998	人
9月末 会員数	2,036	人
女性会員数	150	人
純増減会員数	38	人
My Rotaryアカウント登録率	28.1	%

地区主要行事予定

2021年10月29日現在

年	月	日		行　事	会　場
2021年(R3)高尾年度	11月	ロータリー財団月間			
		6	(土)	~~第3分区IM（山口G補佐・新津）~~ →延期	~~割烹　桝形屋~~
		13	(土)	米山記念奨学生学友会総会・面接官オリエンテーション	ホテルオークラ新潟
		13	(土)	高田RAC創立50周年記念式典	デュオ・セレッソ
		13	(土)	防減災セミナー	長岡市立中央図書館講堂
		20	(土)	第7分区IM（風間G補佐・越後春日山）	ホテルハイマート
		~~21~~	~~(日)~~	~~長期派遣学生選考試験~~ →中止	~~クロスパル~~
		~~27~~	~~(土)~~	~~高額寄付者感謝の集い~~ →中止	~~ANAクラウンプラザホテル新潟~~
	12月	疾病予防と治療月間			
		5	(日)	ロータリー財団地域セミナー	JPタワー ホール＆カンファレンス
		6	(月)	第2回ガバナー会議	ホテルオークラ東京
		6	(月)	RI会長歓迎晩餐会	ホテルオークラ東京
		6	(月)	メジャードナー午餐会	ホテルオークラ東京
		6	(月)	第2回ガバナーエレクト研修セミナー（GETS）、ガバナーノミニー研修セミナー（GNTS）	JPタワー ホール＆カンファレンス
		7～8	(火～水)	第50回ロータリー研究会	メルパルクホール
		12	(日)	全国青少年交換委員長・危機管理委員長 合同会議	AP日本橋＆オンライン
		~~19~~	~~(日)~~	~~ROTEX会議・長期派遣学生オリエンテーション・クリスマス会~~ →中止	
				IA献血キャンペーン	新潟市・上越市

【新入会員】

（敬称略）

RC	氏名	入会日	会社名	役職	職業分類
巻	澁谷　正夫	2021.10.1	マルソー株式会社	安全部長	運送
柏崎	稲垣　武之	2021.10.1	東京電力ホールディングス㈱ 柏崎刈羽原子力発電所	所長	発電事業
直江津	飯野　秀敏	2021.10.1	コマツカスタマーサポート㈱ 東京関越カンパニー 新潟事業部上越支店	営業担当部長	建設機械販売
雪国魚沼	青木　学	2021.10.1	株式会社　あおき花えん	代表取締役	生花販売
小千谷	内田　香織	2021.10.7	東北電力パワーグリッド㈱	所長	電力業
柏崎中央	高野　洋昭	2021.10.12	㈱関電工 原子力部 柏崎刈羽事業所	事業所長	電気工事業

Rotary Region 1 & 2 & 3
コーディネーター NEWS
2021年11月号　No.1
発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

ブランドを育てる（ブランディング）

■ブランディングの意義

企業においてその名と活動の意義を広く社会に認知し理解してもらうことは、経営戦略いわゆるマーケティング戦略においてとても重要なことです。同様に奉仕と親睦を標榜し、職業人による世界的ネットワークを構築してきたロータリーにおいても、世界中の地域社会に好ましい変化をもたらす行動人として、その活動を認知してもらうことは公共イメージ向上にとって大変重要なことです。その本質は、**ロータリーの存在意義（意味）とその活動の「魅力」を伝えていく**ことです。

そのためには「ロータリーのブランド」を育てていく必要があります。そもそも「ブランド」とは、焼き印のことで、特定生産者による商品を他のものと識別する手段として使われてきたものです。ブランドはロゴマークやその意味するものを企業と顧客との接点（タッチポイント）を通して、顧客に評価され、顧客の脳裏に蓄積されていく価値のことです。したがって「ブランディング」は、顧客の頭の中にブランドを構築し、価値を高めて確固たる評価を得ていくことです。つまりブランドを育てていくことです。「ロータリーのブランディング」においても、ロータリアン及び、クラブと地域住民や各種団体などとのタッチポイントを通して、ロータリーの魅力を広く社会に認知され評価されていくことが求められます。

■インナーブランディングとアウターブランディング

クラブや会員が各種の奉仕活動を通じて、地域住民や各種団体とのタッチポイントによる一貫性のある訴求行動をとっていくことが、ロータリーブランドの「らしさ」（価値）をつくるカギとなります。ロゴマークの入ったTシャツでの町の清掃や祭り、各種イベントでの協力、こういったその場その時のタッチポイントが公共イメージ浸透のカギとなります。ロータリー活動に関わるすべてのロータリアンが、何をなすべきか課題を明確に抱いて目標に向かって行動することが必要です。これを成功に導くためには、まず会員へ行動を促すためのロータリー研修、ことに公共イメージ向上のためのブランディング研修が欠かせません。この会員向けに行うブランドの意識づけが**「インナーブランディング」**です。

一方**「アウターブランディング」**と呼ぶテレビや新聞、ネット記事などの外向けの宣伝広告あるいは展示会やイベントがあります。宣伝広告は広域にわたり広報されますが、かなりのコストがかかります。コストのかからない方法として、新聞や雑誌等のメディアに「記事」として取り上げてもらう「パブリシティ」がありますので、意義ある奉仕活動を記事に載せてもらうことも重要です。

■日経新聞に掲載

去る10月22日（金）の日経新聞にロータリーの記事が掲載されました。「地球の課題　今、解決へ若い力を」を大見出しに、辰野克彦RI理事がインタビューに答える形で、ロータリーとは、ロータリーの特色とは、世界での奉仕活動についてなど、思いを込め力強く述べられています。またロータリーの「とんがり」ともいうべき「ポリオ根絶」のメッセージ、日本独自の「米山記念奨学会」の紹介や、日本ロータリー黎明期のクラブも紹介されており、アウターブランディングにとても有効であると感じました。皆さんの地区や地元地域において、この日経新聞のようなマスメディアのメッセージを活用していただき、ロータリー活動を活発に行われることを期待いたします。

ブランディングの意義をご理解され、「インナーブランディング」と「アウターブランディング」がうまく調和して一貫してロータリー活動が実施されれば、ロータリーと社会がつながり、クラブの活性化とロータリーの公共イメージ向上に大いに役立つものと信じます。

第2地域　ロータリー公共イメージコーディネーター補佐　高良　明（川崎西RC）

Rotary Region 1 & 2 & 3

コーディネーター NEWS

2021年11月号　No.2

発行：Region 1 & 2 & 3
ロータリーコーディネーター
ロータリー公共イメージコーディネーター

会員数9万人復活を！

昨年年初からあっという間にパンデミックを引き起こした新型コロナウィルス感染症ですが、わが国ではワクチン接種の進展に伴い、何とか収束の気配がしてきました。

全世界に衝撃をもたらしたこの新型コロナウィルスに、我らがロータリーも多大な影響を受け、その活動の停滞だけでなく、結果的にクラブ数や会員数にも大きな打撃を受けました。一昨年7月から見ると、日本でも34地区のうちクラブ数が増えたのは2730地区（鹿児島・宮崎）の1地区だけで、実に22地区でクラブの終結・減少がみられ、全地区で会員数が減少し、現在8．5万人と低迷しています（いずれも7月末対比）。ただ、その中で世界のロータリー会員数は、130万人を目指すシェカール・メータRI会長の「Each One，Bring One」の檄によって、今年6月に116万人台まで落ち込んでいたものが、10月には119万人にまで回復しています。

その会員増に貢献しているものに、2013年度から導入された「衛星クラブ」があります。「衛星クラブ」はわが国でも昨年度から各地区で具体的な取り組みが始まり、昨年度で9クラブ、今年度は7月に2クラブが誕生しています。そしてこの動きは「衛星クラブ」の理解度が徐々に高まってきたということだと思います。これからが楽しみです。是非、これからのロータリアンの登竜門としての「衛星クラブ」設立を検討してみてください。

さて、ロータリーの基本は“サービス”ですが、このロータリーサービスは行動があって初めて具現化されます。新型コロナ禍では、クラブ例会が休会に追い込まれたり、オンラインでの開催になるなどと、クラブサービス活動にも制約を受け、更に目指す社会奉仕活動においても制限を強いられるようなものにせざるを得ない状況でした。でもそれも緊急事態宣言やまん延防止措置が解かれた今、私どもはその喜びを早速行動で表しましょう。そして各会員、各クラブ、そして各地区のロータリーサービスに勢いを感じられるものになれば、それがロータリーブランドの向上につながり、ひいては新会員の入会促進と会員の退会防止にもつながります。私共は会員一人一人の会員増強活動も大切ですが、各クラブ、各地区では、公共イメージ向上委員会と一体となって、ロータリーサービスの素晴らしさを社会の皆さん方に広めていき、クラブの門戸を叩く人を増やしていただければ、それは本当の基盤向上につながります。さあ、わが国でもあと8か月で、会員数9万人復活を実現しましょう！

第2地域　ロータリーコーディネーター補佐　神野 重行（名古屋名駅RC）

10月は米山月間

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会マンスリーニュース

ハイライトよねやま

Vol.259
2021年10月13日
発行

1. 米山月間の由来

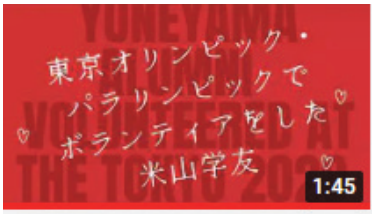
国際ロータリー理事会が指定したロータリーの特別月間に加え、日本独自の月間テーマとして、10月は米山月間となっています。なぜ、10月なのでしょうか？

1975年8月、米山梅吉翁が逝去した4月28日までの1週間を「米山週間」とすることが決定しました。ある地区ですでに行われていた強化活動を全国へ広げ、米山奨学事業を促進することが目的でした。しかし1980年度になると、米山週間は4月から10月1日～7日へと変更されました。その理由はいくつかあります。一つには「ロータリー雑誌週間」が1978年度から4月となり、重なってしまったこと。また、4月では各クラブへ送付される事業報告書などの資料数字が約1年前のものとなることや、採用されたばかりの奨学生に卓話を依頼することに無理がある、交通機関のストライキが多い、など現実的な支障があったためです。そして何よりも、東京ＲＣによる米山基金から日本全地区クラブの共同事業とする決議や合意が行われた地区大会が、いずれも10月だったこと、これが大きな理由とされています。

1983年からは週間制度が「月間」となり、10月が米山月間として定着し、今に至っています。

2. 動画で理解促進を ― YouTubeページのご案内 ―

クラブ国際奉仕プロジェクトの懸け橋となる米山学友



TOKYO2020でボランティアをした米山学友

米山奨学会の
公式YouTubeチャンネル→

米山記念奨学会では動画で直感的に当事業を理解していただけるよう、公式YouTubeチャンネルを開設し、順次新しい動画をアップロードしています。今年度は、「クラブの国際奉仕と米山学友」（11分）、「TOKYO2020 でボランティアをした米山学友」（2分）の2本を新たに追加。今後も、水野 功副理事長が語る米山記念奨学事業の解説動画など、順次公開予定です。ぜひチャンネル登録をお願いします

3. 寄付金速報 ― 米山月間へご協力ください ―

9月までの寄付金は前年同期と比べて7.5%減（普通寄付金:0.3%減、特別寄付金:16.6%減）、約2,800万円の減少となりました。

新型コロナウイルスの感染者数は8月に過去最大のピークを迎えました。各地で出された緊急事態宣言やまん延防止等重点措置を受け、例会が長期休会となっていたクラブも多くあります。この影響により、7～9月の累計額は2012年度以降で最も低い金額となりました。

10月は米山月間です。徐々にコロナに対する警戒レベルも引き下げられ、行動制限も緩和されてまいりました。ロータリー活動も再開されつつありますので、できる限り奨学生との交流を増やしていただき、会員の皆さまにおかれましては引き続き米山記念奨学事業へのご理解とご支援をよろしくお願いいたします。

4. 道路のゴミ拾いで再始動 ― 第 2770 地区学友会 ―

緊急事態宣言が解除されて 2 回目の週末となる 10 月 10 日、第 2770 地区（埼玉県南東）米山学友会が主催する「クリーンアップウォーキング」が行われ、学友と奨学生、ロータリアンら総勢 26 人が参加しました。

このイベントは、コロナ禍でほとんど休眠状態となっていた同学友会が、地域への貢献とともに、奨学生や若い学友たちにもっとロータリーファミリーとしての体験をしてもらいたいと考えた企画です。

写真提供：Jeon Min さん

10 日はその第一弾として、同地区第 1 グループの区域にあるＪＲ浦和駅から別所沼公園までおよそ 2 ㎞の道中を、三人一組でゴミを拾いながら進みました。今後も地区内第 2～12 グループで同様の活動を実施できるよう、日程を調整中ということです。

写真提供：Jeon Min さん

同学友会会長の金正録さん（2011-13／大宮西ＲＣ）は、「ようやく現役奨学生との交流を深めることができた。ゴミ拾いをした人はポイ捨てをしなくなるし、綺麗になった道を戻りながら皆充実感でいっぱいになった。自分の子どもも一緒に参加したが、良い体験をさせることができた」と、語ってくださいました。

5. 大学学長に就任した米山学友

現在、京都精華大学の学長を務める米山学友のウスビ・サコさん（マリ／1992-94／京都北ＲＣ、現在同クラブ会員）。高校卒業後、中国の北京語言大学、南京東南大学を経て来日した経歴の持ち主で、専門は空間人類学。2001 年に同大教員として着任し、2018 年 4 月より学長に就任しました。最近は、著書や新聞寄稿、ニュース番組のコメンテーターとして、日本社会や若者へ多様性や共生の在り方を問うメッセージを発信しています。

今年 6 月 24 日の日経新聞「交遊抄」で、ウスビ・サコさんの寄稿が掲載されました。タイトルは「低姿勢な父」。父とは、ウスビ・サコさんの奨学生時代のカウンセラー、小野内会員のことです。

「お金をもらいにクラブに行くと“世話人”なる男性が現れた。家まで送ると言い、車の後部座席のドアを開けてくれる。この奨学金は運転手までつくのかと感心した」。後に日本人女性と結婚する際も、小野内会員が実父かのように口添えしてくれたエピソードを経て、「マリでは企業の重役は車の後部座席のドアを開けたりはしない。でも、地元の名士である小野内さんは院生の私にそうしてくれた」「私も今は学長という職にあるが、誰に対しても低姿勢でフラットに接したい」という文で結ばれています。

サコさんのように、多くの米山奨学生はカウンセラーやロータリアンの振る舞いから学びます。コロナ禍が落ち着き、この事業の真髄である交流が各地で再開されることを願わずにはいられません。

公益財団法人ロータリー米山記念奨学会
〒105-0011　東京都港区芝公園 2-6-15 黒龍芝公園ビル 3F
Tel：03-3434-8681　Fax：03-3578-8281
E-mail：highlight@rotary-yoneyama.or.jp
URL：http://www.rotary-yoneyama.or.jp/
編集担当：野津(のづ)・峯(みね)